

30Q-pm31

在宅チーム医療推進を目指した専門職間連携教育の試み

○福原 正博¹, 安藤 昌幸¹, 飯村 菜穂子¹, 北川 幸己¹, 杉原 多公通¹(¹新潟薬大薬)

【目的】地域医療において、国民の生活の質を豊かにし、維持していくためには、保健・医療・福祉分野における継ぎ目のないサービスとケアが必要となる。これらを支援する保健・医療・福祉にかかわる専門職の『卵』である学生が、大学という垣根を乗り越えて集い、将来のチーム医療・連携医療の実現と効率的な協働の実践に向けて共に、そして自ら学ぶことを目的とする。

【方法・結果】薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、歯科衛生士などを目指す、新潟市内 3 大学（新潟医療福祉大学、日本歯科大学新潟短期大学、新潟薬科大学）に在籍する学生が集まり、模擬医療チームを形成し、在宅医療を題材として患者の QOL を向上させるようなチーム医療を提案する。この試みは、新潟医療福祉大学のカリキュラムにある「連携総合ゼミ」で行われており、これに本学の実務実習を経験した学生と日本歯科大の学生が参画している。一週間集中して行われる内容は、アイスブレイキングの後、新潟県立津川病院の院長である吉嶺文俊先生から地域医療に関するミニレクチャーがあり、次いでモジュールと呼ばれる模擬患者事例に関して、グループワークによる各職種の見解からの意見交換、最終的には対象の患者に対して提案する医療の内容をまとめ、発表・意見交換する形で進められた。学生は患者やその家族、医療従事者と十分なコミュニケーションをとることの重要性を肌で感じ、専門職の『卵』が互いの立場や視点を尊重し連携を図ることで、シームレスなケアができることを体験した。その様子を交えて紹介する。